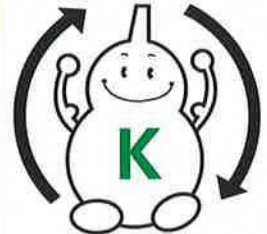


ごみリサイクル



クルリーナちゃん
(ごみ問題のキャラクター)

No.47

発行／ごみ問題を考える草津市民会議

編集／広報委員会

桜の木等を使った小物作り



フリーマーケット



牛乳パックヨーヨー作り



リサイクル作品展示販売



リサイクルしおり作り



ヘルスアップ体験

リサイクルフェア草津 2019



よさこい演舞



ごみ収集車ごみ投入体験



朝採れ野菜、加正品等販売



風呂敷活用講座



空き缶を使った一輪挿し作り

リサイクルフェア草津 2019

会場スナップ

令和元年9月29日
草津市立クリーンセンターにて

段ボールコンポストコーナー

今年のコーナーは、本会の会員が事前にプランターや植木鉢で育てた里芋、ナス、ニンジン、セロリ、ツル紫などをシートの上に並べ、段ボールコンポストで作成した堆肥の効果をお伝えしました。

リサイクルフェア全体で実施していたクイズラリーのブースでもあったため、訪れる方は若い家族層が多く、スタンプ集めに集中している方もおりましたが、コンポスト作りの説明を聞いてもらうきっかけになったと思います。来年度は、さらなる啓発効果の向上を目指し、肥料の現物見本を展示するなど、企画の変更を考えてみたいと思いました。



フリーマーケットコーナー

入口前のフロアは、午前10時の開場を待つお客さんでいっぱいです。毎年来場されているお母さんでしょうか。入口からのぞき込み、子どもさんと今にも走りだしそうです。無理ありません。まだまだ使えるおもちゃ・雑貨そして子ども服や大人の普段着まで格安で売られているのですから。大きな袋を下げて満足気に帰られました。ごみの減量につながる大賑わいのフリーマーケットコーナーでした。



ごみの分別ゲーム

草津市の1日のごみ量*を表現したSLの展示を見て、ごみの多さに驚いている参加者が多くいました。また、現物を使ったごみの分別クイズに挑戦し、すごく悩んでいる子どもたちもいて、ごみの減量について考えるきっかけとなったようです。

それでは、ここでクイズです。草津市で歯ブラシをごみで出す場合、正しいごみの分別は何でしょう？(答えは欄外)

※平成30年度38,628トン(前年度比 約925トン増加)



ごみ分別ゲームの様子

ごみ問題を考える草津市民会議顕彰

環境保全に関する実践活動に尽力されている、草津モラロジー事務所様と後藤美智子様を本会から顕彰させていただきました。

草津モラロジー事務所様は、「びわ湖を訪れる方に気持ちよく散策していただくために」との想いで、月に一度、早朝より草津市内にあるびわ湖周辺の駐車場(6カ所)の清掃活動を実施されています。後藤様は、10年以上にわたり、桜ヶ丘中央公園や周辺道路のごみ拾いを実施されており、小学生から大人までの通行者への啓発にも大きく貢献されています。

今後、このような地域の美化活動がますます市内で広がりを見せ、草津市がごみのない住みよいまちとなることを願います。



左:後藤 美智子様
右:草津モラロジー事務所
代表世話人 我孫子氏

見て・聞いて・体験バスツアー

開催日: 8月19日(月)
研修先: 花王株式会社 和歌山工場
参加者: 49名



ごみや環境について考える機会として、バスツアーを実施しました。夏休み期間中でもあり、小中学生が8名、一般参加者

が21名、本会の会員が20名参加しました。

研修先である花王株式会社は、明治20年の開業で、全国に10箇所の工場があります。原材料選びから、ごみに出すまでのすべてをエコロジー視点で考える“一緒にeco”をキーワードとした環境に配慮したモノ作りを学びました。

まず始めに、先端のエコ技術を体験できる「花王エコラボミュージアム」で地球環境の話と製品の工夫に関する説明を聞きました。

●地球環境について

二酸化炭素に注目し、太陽光・赤外線・温室効果ガス等により地球を温める。この100年で0.7度上昇していると言われており、地球温暖化が進むと、干ばつ、水不足、森林火災等が発生。

●長年にわたる製品の工夫

(原材料選びから、ごみに出すまで)

- 原材料を選ぶときのエコとして、石けんや洗剤の主な原料は、ヤシである。ヤシが育つ熱帯雨林にいる生物が住み続けていくための環境を守りながら、製品を製造。
- 製品を作るときのエコとして、工場エネルギーや水を大切に、資源を有効に利用。
- 製品を運ぶときのエコとして、ダンボールの仕切りを省き、紙の使用量を40%削減。また、二酸化炭素の排出量がトラックを1としたら、船は4分の1、鉄道は7分の1であり、適正な輸送方法を選択。
- 製品を使うときのエコとして、洗濯のゆすぎを1回にして、水や電気の使用量を抑えることを実現。また、製品のコンパクト化、詰め替え・付け替え商品を開発し、ごみを減らす工夫を実施。

この後、工場に移動し、洗剤ができるまでの工程を見学し、帰路に着きました。

今回のツアーでは、物を作る、買う、使う中で地球環境への大きな影響が出ることを学びました。未来の子どもたちのことを考え、環境を汚せば我が家に返ってくることを自覚し、ごみの減量に努めましょう！



コラム

G20後のプラスチックごみ対策と世界の動向

ごみジャーナルNo.45のコラム欄で記事にしたG20のプラスチックごみ対策は、新たな汚染を2050年までにゼロにするという、世代を越えるほどの期間の目標設定としたことに驚愕を覚えた。せめて、本年に環境省が策定した「プラスチック資源循環戦略」において、プラスチックごみのリデュース(排出抑制)の目標年とした2030年までの目標にはならなかったか。

微細なプラスチックごみによる海の汚染が世界的な問題となる中、世界では、レジ袋無料配布を83ヶ国(中国・インド等)が禁止している。また、27ヶ国(英国等)がストロー・皿等特定の使い捨て

プラスチック製品の使用を禁止しており、EUでは2021年から特定のプラスチック製品の販売禁止指令が出され、この英断には目を見張る思いだ。

日本においても、G20開催地の効果と相まって、大阪府と大阪市が、本年1月28日に「おおさかプラスチックごみゼロ宣言」を発表した。レジ袋やストローといった使い捨てプラスチックの削減やリサイクルを推進し、プラスチックごみの排出ゼロをめざす。

私たちが正しいごみの分別を守り、マイバッグ・マイボトル等を使用して、プラスチックごみ削減に邁進し、世界から取り残されないようにしたい。

“プラスチックごみ”に関する啓発本

①プラスチック・フリー生活(NHK出版)

②容器包装をみなおそう！海洋プラスチックごみ削減に向けて(容器包装の3Rを進める全国ネットワーク)



家庭ごみ排出の「基本の基」

ごみ問題を考える草津市民会議の活動は、ごみに関する市民意識を啓発し、より良い地域環境を作ることにあります。地域環境部会より家庭ごみ排出の「基本の基」について2点、示します。

①「ごみを漂流させないで」

市指定ごみ袋に記名欄があることをご存じですか。

記名することは、排出に対する責任を明確にすると共に、ルール違反に対する防御策にもなります。個人情報への配慮として名前を記さずに住居番地のみを記しているケースもあります。

地域のルールを守って、名前の記入にご協力をお願いします。



②「汚れたプラスチックに泣いている」

「焼却ごみでしょう!」と本会の会員向けセミナー参加者の多くが声を挙げたのが、クリーンセンターに集まったプラスチックごみが汚いまま入れられていることへの感想です。クリーンセンターにおけるプラスチックの分別工程が手作業で行われていることを知れば、**プラスチックごみは美しく出す**べきだと実感できました。分別に関しては、市の「ごみ分別アプリ」もありますので、正しい出し方の参考になります。

以上、ごみ問題の「基本の基」でした。

ごみ分別アプリの
ダウンロードはこちらから



▲iPhone専用



▲Android専用

事務局

【広報委員】

・松村 幸子 ・山本 正行 ・木村 兼久
 ・石田 治郎 ・林 和臣 ・清水 節子
 ・油布 輝義 ・富山 康夫 ・山口 尚孝

E-Mail: ecostyle@city.kusatsu.lg.jp

TEL (077) 561-6580

FAX (077) 561-6583

〒525-0043 草津市馬場町1200番地25 草津市役所くさつエコスタイルプラザ内 広報委員会

「ごみ問題を考える草津市民会議」

「ごみジャーナル第47号についてのご意見、ご感想をお気軽に左記までお寄せください。」

〒525-0043

草津市馬場町1200番地25

草津市役所くさつエコスタイルプラザ内

編集後記

皆様方に少しでもごみ減量や本誌「ごみジャーナル」に興味を持っていただきたい思いから、今号よりカラーで印刷をしました。

今後、少しでもゴミが少なくなる運動につながるよう、本誌を充実して今号で以上に読みやすい紙面づくりを行いたいと考えております。皆様によって本誌を育てていただくためにも、ご意見、ご要望がありましたら事務局までご連絡をくださいますよう、お願い申し上げます。

ポイ捨て防止市民行動の日

実施日: 5月26日(日)
参加者: 86名

ポイ捨て防止意識と地域における美観保持意識の向上を図ることを目的に「ポイ捨て防止市民行動の日」を実施しました。渋川まちづくりセンターに集合し、本会の会長および草津市長の挨拶に続いて、スケジュールと清掃ルートについての説明を聞いた後、いよいよ出発です。ポイ捨て防止や本会の「のぼり」を先頭に、ごみ袋と火バサミを持って、清掃と啓発を開始しました。側溝に落ちているペットボトルや、街路樹下に落ちているごみを拾いながら草津駅に到着。草津駅では啓発物品の配布を通じて、ポイ捨て防止の啓発をしました。ゴール地点の渋川まちづくりセンターでは、拾ったごみの分別を行いました。

草津駅までの道は、我が家の庭先です。ごみ一つ無い、きれいな環境にしたいと思います。

